

2023年7月31日

2024年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

◇ 連結経営成績	3
◇ 畜産飼料の業界環境①	4
◇ 畜産飼料の業界環境②	5
◇ 営業利益の増減要因	6
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料	7
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料 (続き)	8
◇ 飼料セグメント 実績 ②水産飼料	9
◇ その他セグメント 実績	10
◇ 今後の見通し①	11
◇ 今後の見通し②	12
◇ 参考資料①	13
◇ 参考資料②	14

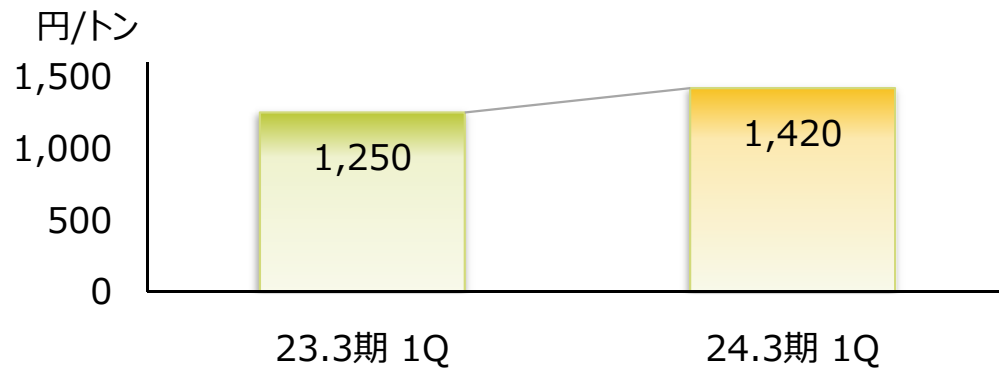
(単位：百万円)

	実績対比			計画進捗		
	23.3期 1Q	24.3期 1Q	前期比	通期	24.3期 1Q	進捗率
売上高	53,772	61,012	7,240	236,000	61,012	25.9 %
飼料	50,581	57,691	7,110	221,000	57,691	26.1 %
その他※1	3,190	3,320	129	15,000	3,320	22.1 %
営業利益	△ 210	169	379	1,900	169	8.9 %
経常利益	△ 27	359	387	2,200	359	16.3 %
セグメント利益※2	△ 29	363	393	2,200	363	16.5 %
飼料	△ 302	285	587	1,900	285	15.0 %
その他※1	267	124	△ 142	950	124	13.1 %
調整額※3	5	△ 46	△ 52	△ 650	△ 46	7.1 %
四半期純利益	△ 46	244	291	1,500	244	16.3 %
設備投資額	897	537	△ 360	5,100	537	10.5 %
減価償却費	694	676	△ 18	2,920	676	23.2 %

※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益

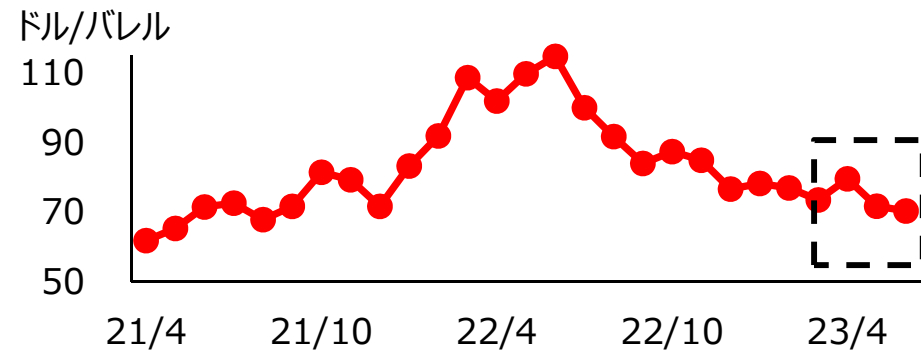
3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む



基金負担金[※]の単価推移

- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから23.3期は1,250円/トン、24.3期は1,420円/トンと高値で推移

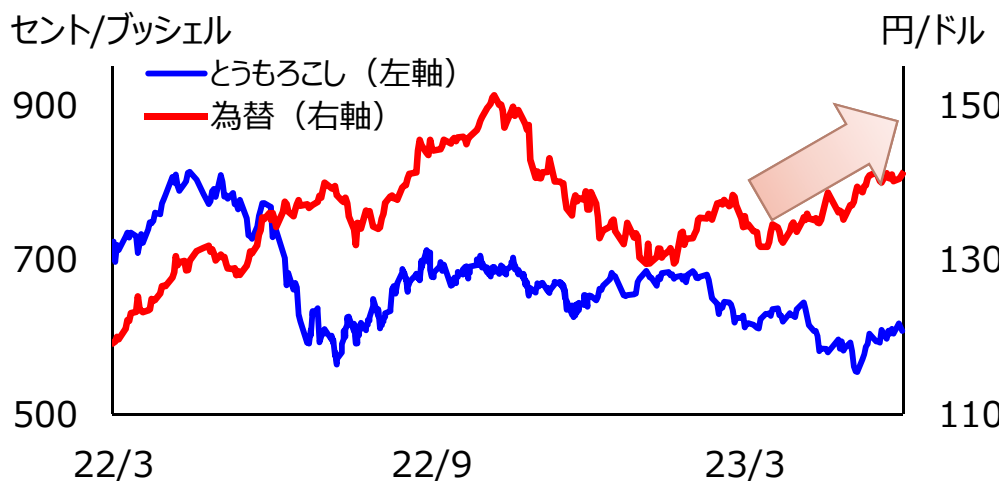
※ 基金負担金の詳細は13ページ参照



※ 「World Bank」によるWTI原油先物

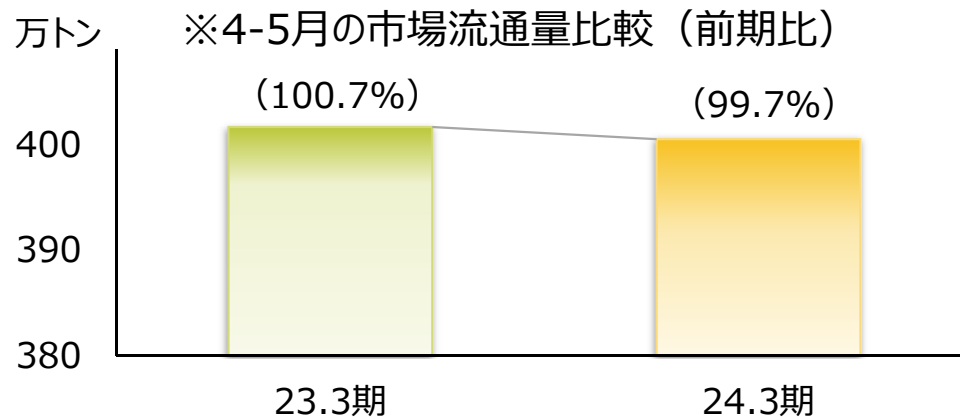
原油価格の状況

- ◇ 22年3月には、100ドル/バレルを突破
- ◇ 22年6月以降下落し、23年4-6月は70ドル/バレル台で推移



とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移

- ◇ とうもろこし相場は22年5月をピークに下落し、直近は安定
- ◇ 為替は22年10月に150円/ドルを超過。その後下降するも、再び円安方向に推移



畜産飼料の市場流通量

◇ 昨年、鳥インフルエンザ感染拡大により減少した鶏の飼育羽数が回復途上

	2022年		2023年	
	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	1戸当たり 頭羽数	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	1戸当たり 頭羽数
採卵鶏	137,291	75,851	128,579 (93.7)	76,082 (100.3)
ブロイラー	719,259	334,539	720,878 (100.2)	340,037 (101.6)
養豚	8,949	2,493	8,956 (100.1)	2,658 (106.6)
肉用牛	2,614	65	2,687 (102.8)	70 (107.6)
乳用牛	1,371	103	1,356 (98.9)	108 (104.4)

飼養頭羽数と1戸当たり飼養頭羽数の前年比

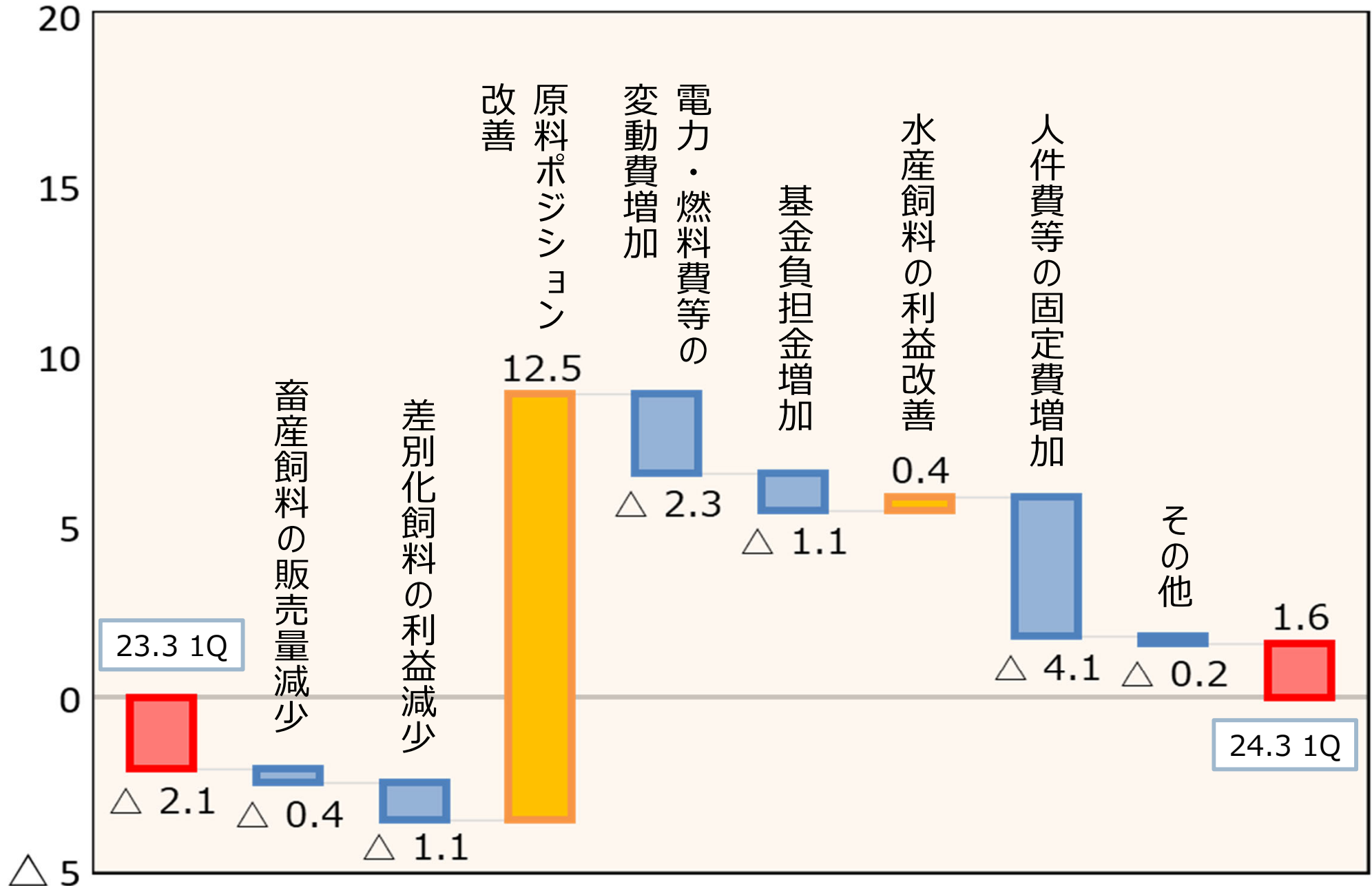
- ◇ 飼養頭羽数は採卵鶏と乳用牛では減少するもその他畜種は増加
- ◇ 1戸当たり飼養頭羽数は全畜種で増加
⇒ 生産者の規模拡大が進んでいる

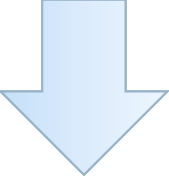

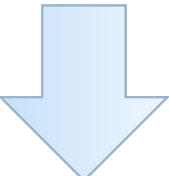

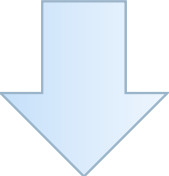
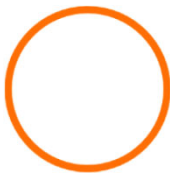
※ 1 農林水産省「畜産統計」より（各年2月1日現在）、採卵鶏は成鶏めすの飼養羽数、ブロイラーは出荷羽数

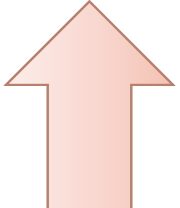
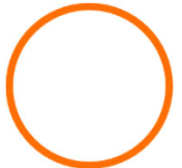
2 カッコ内は前期比

営業利益の増減要因

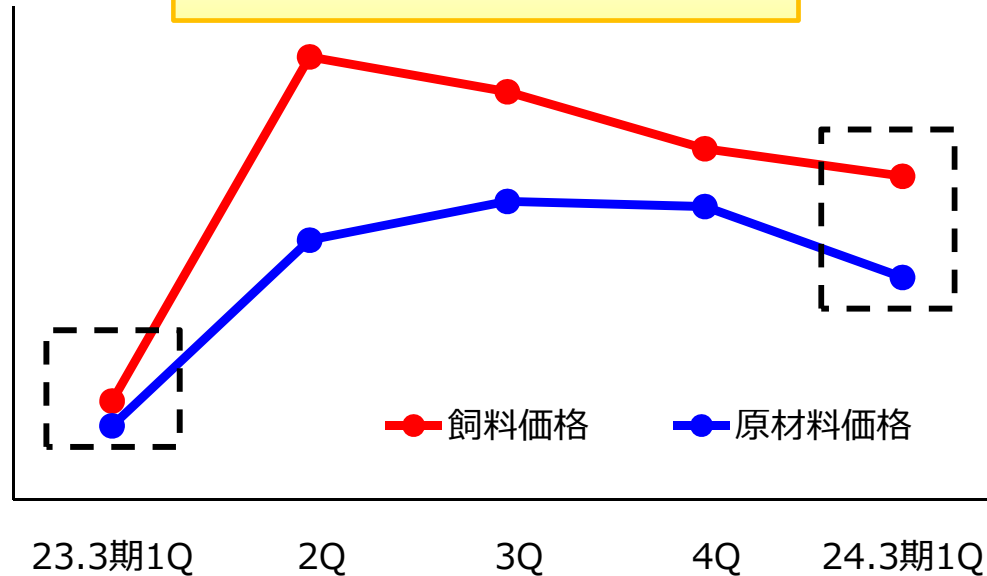
億円



項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量	 △0.4億	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前年同期比98.3% ◇ 鳥インフルエンザの影響を受けて、採卵鶏用飼料の販売量が減少 ◇ ブロイラー用飼料において、競争激化が加速し、販売量が減少 	
差別化飼料比率	 △1.1億	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前期からの飼料価格高騰により、価格志向が強まった影響を受け、差別化飼料の汎用化が進行 ◇ その中で環境に配慮した製品の比率は上昇中 	
電力費・燃料費等の変動費	 △2.3億	<ul style="list-style-type: none"> ◇ エネルギー価格高騰により変動費が増加 ◇ 増加幅は計画通り 	

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +12.5億	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 飼料価格はプライスリーダーである全農が値下げを発表したことで下落 ◇ 為替は円安で推移するも、直近の穀物相場が下落し、原材料価格は低下 ◇ 原材料価格の下落幅が値下げ幅を上回り、原料ポジションは改善 	

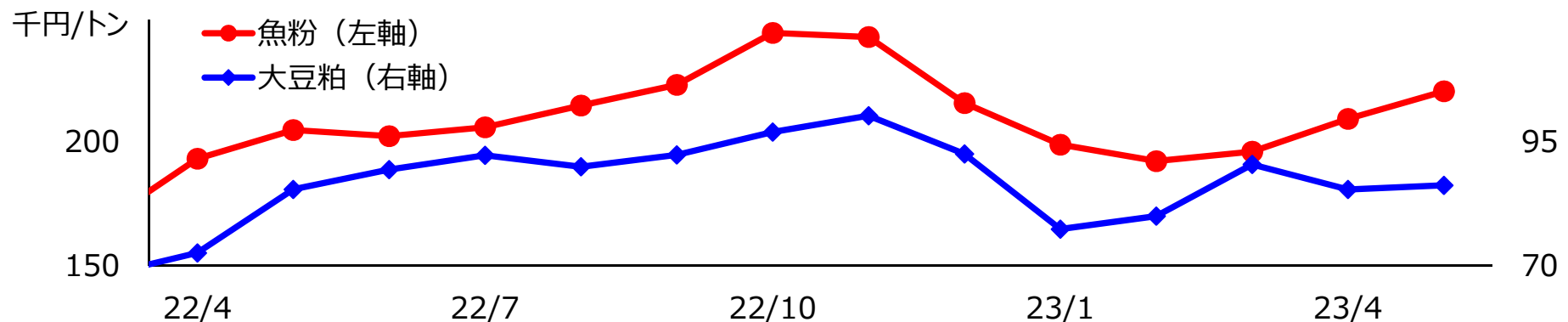
原料ポジションの状況








※原料ポジションとは

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
 - 飼料価格は、四半期毎に改定
 - ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の利益改善	↑ +0.4億	◇ 利益率は悪化したものの、販売量が大幅に増加し、1Q利益は改善	△
利益率	↓	◇ 主原料である魚粉及び魚粉の代替原料で利用する大豆粕の価格が高騰 ◇ 競争が激化する中で価格転嫁が進まず	×
販売量	↑	◇ 値上げを見据えて、養殖業者による値上げ前の製品引き取りが活発 ※ 水産飼料は定期的な価格改定はないが原料高騰を受け、各社値上げを実施	○



※ 財務省 貿易統計

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメント	 △1.4億円	◇ 各事業の販売が伸び悩み、セグメント利益は前年同期を下回る	△
鶏卵販売		◇ 鳥インフルエンザの影響と卵価高を受け、外食・業務用は回復するも、量販向けの販売が伸び悩み前年同期を下回る	△
肥料		◇ 生産者・特約店の在庫が減らないなか、肥料価格の先安感もあり、販売量は前年同期を大きく下回る	△
畜産用機器		◇ 生産者が設備投資を様子見しているなか、販売台数は前年同期を大きく下回り、大幅な減益に	×
保険代理業		◇ 畜産保険の販売件数及び利益は前年同期を上回り、計画通り堅調に推移	○

項目	2Q以降
畜産飼料販売	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鳥インフルエンザからの回復に伴い、採卵鶏用飼料がけん引し販売量は増える見込み ◇ 動物の疾病・廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 飼料価格の高止まりに加えて、畜産経営における諸経費が増加しているため、価格志向は強まる見込み ◇ 環境に配慮した製品の数量は堅調に推移する見込み
電力費・燃料費等の変動費	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 10月までは激変緩和対策事業により負担軽減があるため2Qは1Qの同様の水準で推移する見込み ◇ エネルギー価格の高騰が続くと費用増加につながる
原料ポジション	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 2Qは1Qよりも改善する見込み ◇ 通期では計画通りに推移する見込み ◇ 穀物相場及び為替の状況により、激しく変動する

項目	2Q以降
水産飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水産飼料価格の値上げの動きがあるなか、飼料販売量は計画通り推移する見込み ◇ 魚粉価格は更に高騰する可能性があり、原料価格の上昇分を十分に販売価格へ転嫁することが難しく利益率は低下する見込み
その他セグメント	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鶏卵販売、保険代理業の利益は計画通りの見込み ◇ 肥料、畜産用機器の販売量は下半期に増加する見込み

- ◇ 飼料セグメントは、水産飼料の計画未達分を畜産飼料で補う見込み
- ◇ その他セグメントは、下半期に販売を巻き返す見込み

通期計画の達成を目指す

Q 差別化飼料とは？

A

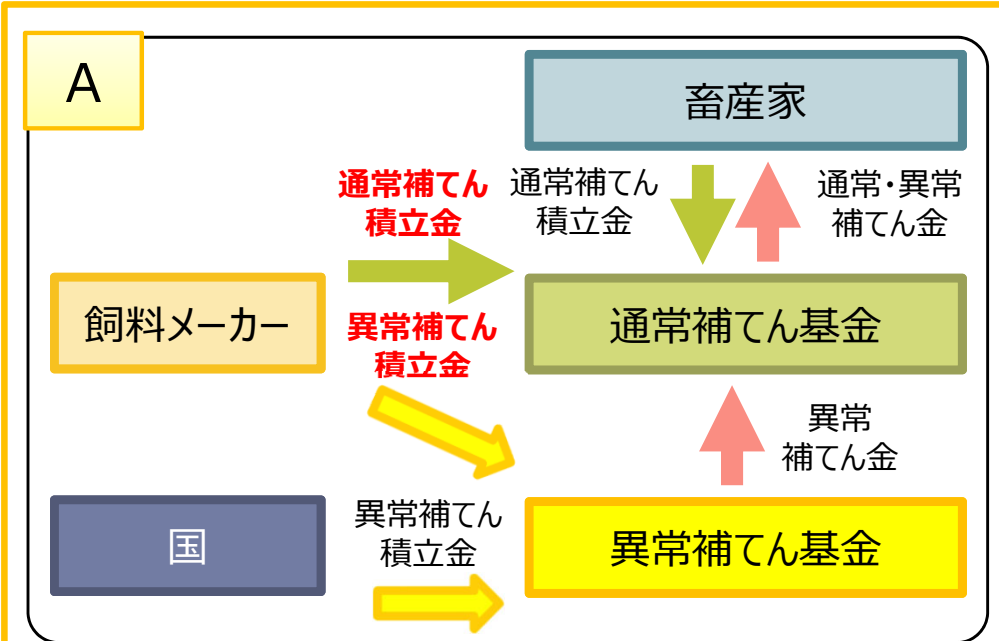
- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

Q 畜産保険とは？

A

- ◇ 火災や風災等の自然災害や設備の事故等により家畜が死亡した場合に保険金が交付される保険
- ◇ ④グループはいち早く開発・販売しお客様をサポート

Q 基金負担金とは？



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
- ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
- ◇ 積立金は財源により増減

24.3期1Q 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	654 (△11)	負債	348 (△12)
現預金	16 (△2)	仕入債務	167 (△9)
売上債権	441 (△4)	有利子負債	111 (△11)
たな卸資産	155 (△16)		
流動比率 239.1 % (+8.7pt)		純資産	620 (+6)
		株主資本	596 (△2)
固定資産	314 (+5)	その他包括利益	22 (+9)
有形	244 (△1)	非支配株主持分	2 (+0)
無形	4 (△0)	自己資本比率 63.8% (+1.1pt)	
投資その他	65 (+6)		
総資産	969 (△6)	負債・純資産	969 (△6)

※ () 内の数値は、23.3期末との比較



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。